

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 新しい学びの形態を実現するための問題自動解説技術の開発

2. 個人研究者名

永田 亮（甲南大学知能情報学部 准教授）

3. 事後評価結果

学習者自身に考えさせる自律的な学びの形態を作り出すことを大きな目的として、英文ライティング学習の問題・解説文の自動生成技術の開発を目指した。解説文自動生成のためのデータセット整備から、生成方法の開発とその評価まで、解説文生成研究におけるシステムの確立を狙いとした。

解説文の生成という先行研究が少ない分野において、深層学習に基づく新しいアプローチにより、さきがけとなる基盤技術を確立できたと評価できる。また、実際に企業からの問い合わせもあり、実用化への道を着実に進んでいると言える。

今後は、人間との協働により、開発した技術の精度を補完できるような分野での実装を広げていくことを期待する。また、解説の精度を高めるためには、生成した解説文のユーザー評価実験など、取り組むべき課題は未だに存在すると考えられる。本研究の発展を通して、教育界への貢献を期待する。

(2021年9月追記)

本課題は、新型コロナウイルスの影響を受け、6ヶ月間期間を延長した。コロナ延長期間では、さきがけ研究で創出した解説文生成手法をまとめた論文を発表した。また、解析手法のコンテスト (Shared Task) 実現にも取り組み、研究成果の普及に努めていると評価できる。今後も新型コロナウイルスの影響は予想されるものの、引き続き学習者のデータ収集やユーザー評価実験を実施してほしい。